

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)ホテルルートイン京都西舞鶴駅前 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.3
1 音環境						2.6	0.15	3.9	1.00	3.7
1.1 室内騒音レベル		各部屋できるだけ界壁とし、客室は遮音壁とする				3.0	0.40	4.0	0.40	
1.2 遮音						3.0	0.40	4.4	0.40	
1 開口部遮音性能		開口部はペアガラスとし、客室は遮音性能の高いサッシを採用する				3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		TLD-56				-	-	5.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		軽量衝撃音の軽減を考慮しタイルカーペットを採用する				-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						2.9	0.35	3.1	1.00	3.1
2.1 室温制御						3.7	0.50	4.1	0.50	
1 室温		快適な室温となるよう室内空間にあった設備容量のものを設置する				5.0	0.38	5.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.8	0.25	2.8	1.00	2.8
3.1 昼光利用						1.8	0.30	3.6	0.30	
1 昼光率		客室の昼光率=1.1%				1.0	0.60	4.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御						2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御		ゾーンごとに照明制御できる計画とする				5.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						4.2	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆やVOCの放散量が少ない建材を利用する				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						4.0	0.30	4.0	0.38	
1 換気量		汚染空気を排出できるような十分な換気量を確保する				5.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/15以上				-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		界壁で区画し、前室を設け常に負圧に保たれるよう計画する				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						3.7	0.40	3.4	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	1.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		LANはCat6とする				-	-	5.0	0.50	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観		天井高さ2.55m				-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		雰囲気演出するため、間接照明を計画している				4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		床の仕上げは防汚性を考慮し、セラミック系タイルを計画している				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		十分なスペースの清掃員控室を設置している				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		鉄筋コンクリート造とする				4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床材はセラミックタイルとする				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水、排水配管にVP管、消火配管にSGP管(白)を採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		パッケージ型空調機とする				4.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		吊り配管を採用している				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型の小便器(0.9L/回)を採用している				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化を図っている				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.2	0.30	2.4	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり			-	-	1.8	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.2	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		適切に天井点検口を計画する	4.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		天井の懐で配管する	4.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		適切に天井点検口を計画する	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		適切に天井点検口を計画する	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		更新時も建物機能が維持できる計画とする	5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPIm]: 0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.66	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型の機器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		府内産木材を使用している	3.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を13種類採用している。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		検討体制に専門家が参加している	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	